

札幌市立札幌北中学校
学校だより 第9号 (556号)
令和7年3月14日 発行

躍動

札幌市東区東苗穂
10条3丁目16-20
TEL 011-791-1190

急速に進む雪解けとともに、ことさら強く春の鼓動を感じられるようになりました。本日、多くの保護者に見守られ、3年生332名がこの札幌北中学校から巣立っていきました。第39回卒業証書授与式を無事に終えることができ、保護者の皆様には深く感謝申し上げます。

学校長式辞

札幌市立札幌北中学校長 美田 学秀

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。心から皆さんのご卒業を祝福いたします。

この佳き日に、PTA会長 辻 佳代子様、PTA役員の皆様、近隣小学校・高等学校の先生方、札幌地区自治連絡協議会会長 岩谷 隆司様をはじめとする地域の皆様、並びに、卒業生のご家族の皆様のご臨席を賜り、ここに第39回卒業証書授与式を盛大に挙行できますことを、心より厚くお礼申し上げます。

とりわけ、ご家族の皆様におかれましては、義務教育の卒業である本日を迎えるまで、毎日、お子様の健やかな成長を願い、心を砕いてくださったことと思います。本日のお子様のご卒業は、思いひとしおのものがあると感じ、心からお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

「親思う心に まさる親心」これは、江戸時代後期に活躍した吉田松陰の言葉ですが、「子どもが親を思う心よりも、親が子どもを思う心の方が、深い」ということを言っています。小さい頃から、卒業生の皆さんの成長を祈り、見守り、支えてくださったのは後ろに座っているご家族の皆様です。雨の日も、風の日も、暑い夏も、寒い冬も、君たちの笑顔を喜び、ふさぎ込んでいたら心を痛め、ひたすら君たちの成長を願い、この日を心待ちにしてこられました。今日この式が終わり、ご家族に最初に会ったとき「ありがとう」の一言をお願いします。真っ先に感謝の気持ちを表してほしいと思います。

思い起こせば皆さんが小学校4年生の終わりから、コロナウイルスが学校生活に大きな影響を与えてきました。心身の成長や思い出作りにとって大切な小学校高学年の時代にいろいろな制限があり、不便な思いをしたと思いますが、中学校入学からはコロナ禍も収束に向かい、皆さんは再び、力強く前向きな生活を始めました。

この数年間のコロナ禍を通して強く感じたことの一つが「明けない夜はない」ということです。どんなにつらく苦しい時期があっても、時間の流れや周囲の人の助けによって、ほとんどの問題は解決することを学んだ気がします。現在も長期にわたる戦争が続いていたり、災害の影響で不自由な生活をしたりしている人もいますが、近い将来に平和で穏やか日常が戻ってくることを、信じたいと思います。

さて、卒業生の皆さんの姿で一番印象に残っているのは、昨年5月に東北地方に一緒に行った修学旅行です。大人数での移動は大変ではありましたが、一般の人たちに迷惑をかけないように気遣い、その場にふさわしい言動を見せる皆さんに感心したことをはっきりと記憶しています。その後も学校祭や合唱コンクールで、1・2年生の手本となるような自主的な活動をし、部活動とあわせて「憧れの先輩」としての存在感を示していました。

「生きていることが善」という言葉を耳にしたことがあります。善は善悪の善です。皆さんが幸せに生きていることで、喜ぶ人がたくさんいます。生きていることはそれだけで価値のあることです。逆に、命をなくすことは、周囲の人たちにとって最大の不幸です。本校でも2月に先生がお亡くなりになりましたが、思わぬ形で命が失われる出来事に遭遇して、このことを強く感じています。

この世に生を受けたからには、命ある限り生き続けることが、人としての責任です。この先の長い人生の中で困難に直面することもあるかもしれませんが、命がある限りは、多少の失敗は挽回することが可能ですし、どんなにつらいことがあっても、いつかは楽しい時間がかならずやってきます。自分の命は自分だけのものではなく、支えてくれた周りの人のものでもあります。「自分の命」と「他人の命」を大切にする気持ちを、絶対に忘れずにいてほしいと思います。

卒業生の皆さん、いよいよお別れの時が迫ってきました。多くの方が、小学校時代から大規模校での生活となり、不便なこともたくさんあったとは思いますが、そのような環境での生活経験によって、他人への気遣いや思いやりの気持ちが育まれたはずです。皆さんの夢や希望があふれる前途を祝して式辞といたします。

卒業生答辞

卒業生代表 伊藤 理紗

「永らへば またこの頃や しのばれむ 憂しと見し世ぞ 今は恋しき」

これは私が好きな百人一首のうちの一句です。この句の意味は「辛く苦しいと思っていた昔の日々も、今となっては恋しく思い出される」という意味です。私は今、千年前にこの句を詠んだ藤原清輔朝臣と同じ気持ちでいます。この3年を振り返ると辛く苦しいこともたくさんありました。しかし、今となってはそれも大切な思い出だったと思います。本日、ご多忙の中ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、校長先生をはじめ先生方、保護者の皆様に卒業生一同、心より御礼申し上げます。

3年前、私達は新しい環境に不安と希望を抱き、札苗北中学校に入学しました。その希望も虚しく、私達の学校生活は新型コロナウイルスの渦中にありました。クラスメイトの笑顔はマスクの裏に隠され、学校行事も次々と中止・縮小になりました。決して楽な道のりではありませんでしたが、辛くて苦しいことがたくさんあった分、楽しいこともたくさんありました。

中学校初めての旅行的行事である野外学習。天気は生憎の大雨でしたが、それでも中止にせず、続行してくれた先生方にはとても感謝しています。そのおかげで円山動物園の中でたくさんの思い出ができました。雨が本降りになってしまい、予定よりも短い時間でしたが、仲間と充実した時間を過ごせました。

2年生に進級すると、たくさんの挑戦をし、たくさんの成功と失敗を経験しました。1年の中で一番盛り上がる学校祭も2回目の参加になりました。約1ヶ月の準備期間。毎日のように放課後まで残って準備しました。その期間中も紆余曲折ありましたが、無事迎えられた当日。学級装飾は学年全体としてとてもレベルの高いものになりました。ステージパフォーマンスもおおいに盛り上がり、大成功に終わりました。

最高学年、3年生になるとすべてのことに「最後」とつくようになり、少し寂しさを感じるようになりました。夏休みが近づいた頃、最後の陸上競技記録会は中止になったという知らせを聞きました。その代わりに先生方と体育委員会のみなさんが体育的行事を企画してくれました。クラス対抗なのに、他クラスを応援したり、素晴らしいプレーをした人をたたえたり、この学年の良さが出ていたと思います。7月のジメジメした暑さをかき消すほど熱い体育的行事になりました。

私が3年間、たくさんの学校行事がある中、特に力を入れていたのが合唱コンクールでした。私は3年間、合唱コンクールにプロジェクト長として関わってきました。私達が一年生のときの合唱コンクールはコロナウイルスで中止。2年生のときに初めての合唱コンクールを経験しました。それでもまだ、他学年・保護者の方は、いれることができませんでした。3年生になり、初めて他学年・保護者の方をいれての合唱コンクールを迎えることができました。「全学級金賞」を目指してどの学級も今まで以上に気合を入れて練習していました。はじめはお互いの温度差ですれ違うこともありましたが、練習をしていくうちにみんなが同じ方向を向くようになり、気持ちも歌声も一つになっていきました。私達は3年間一度も最高学年の歌を聞いたことがありませんでした。しかし、全学級が最高学年としてふさわしい歌声を響かせてくれました。結果は目標の「全学級金賞」とはいきませんでした。最高の思い出になった合唱コンクールだったと思います。

仲間と切磋琢磨した部活動や生徒会活動。部活動ではたくさん辛いことがあったと思います。私も女子バレーボール部に所属していたのですが、何度もやめたいと思っていました。それでも諦めずに最後まで続けられたのは、味方でもあり、ライバルでもあった仲間の存在があったからだと思います。調子が悪い時に励ましてくれたり、アドバイスをくれたり、いつも私の心の支えになっていました。そして何より、どんなときも自分たちを犠牲にしてまで私達のことを考えてくれた顧問の先生方がいてくれたから、3年間やってこれたのだと思います。ときには厳しい言葉も言われて挫けそうになりましたが、その言葉をバネにして頑張れました。最後の大会では、今まで学んだことを全力で生かし、全力で仲間を応援して最後まで頑張れました。

生徒会活動では、様々な挑戦があったと思います。私の場合は、生徒会長に立候補したことです。もともと、私は人前で話すのが苦手でリーダーシップをとるような人間ではありませんでした。しかし、当時担任だった松本先生の一言で生徒会に興味を持ち、1年生のときに会計次長、2年生のときに生徒会長に立候補させていただきました。生徒会での2年間で、様々な経験をさせていただきましたが、そのすべてが私の力になりました。大好きな生徒会役員の人々と増田先生をはじめとした先生方と過ごせた2年間は一生忘れません。

私達がかけがえのない経験ができたのは、3年間私達を支えてくれた先生方のおかげだと思います。私達が見ていないところでも苦勞されたこともたくさんあると思います。どんなときでも、私達を第一に考えてくれていた先生方がいたから今日を迎えることができました。

そして15年間支えてくれたお父さん、お母さんへ。私は中学生になって、2人とぶつかることも多かったね。それでも私の話に耳を傾けて、最後まで私の夢を応援してくれてありがとう。常に温かく迎え入れてくれた家族の存在が心の支えになってたよ。これからは私も家族の心の支えになれるように日々、頑張っていきます。これからも暖かく見守ってください。

最後に3年間、共にしてきた仲間たちへ。私が先ほど言った百人一首にはもう一つの意味があります。「この先もっと長く生きていけば、辛いと思っている今この時もまた懐かしく思い出されてくるのだろうか。」きっとこれからも辛い、苦しいと思うことはたくさんあるでしょう。しかし、この3年間の思い出、生きていけば、どんな壁も乗り越えられると信じています。この学年で卒業できて本当に幸せです。出会ってくれてありがとう。

結びになりますが、これまで私達の学校生活を支えてくれたすべての方々に御礼を申し上げるとともに、札苗北中学校のさらなる発展を祈念し、答辞といたします。